



2018年2月19日

各 位

会 社 名	ウルトラファブリティクス・ ホールディングス株式会社
代 表 者 名	代表取締役社長 中野 淳文
コ ー ド 番 号	4 2 3 5 ( J A S D A Q )
問 合 せ 先	法務部 部長 高山 裕史
電 話 番 号	0 4 2 - 6 4 4 - 6 5 1 5

## 中期経営計画の見直しに関するお知らせ

当社が、2017年1月23日に開示いたしました2017年から2019年までの3か年の中期経営計画に関しまして、2018年度および2019年度の見通しを「2017年度決算説明資料」において見直しましたので、お知らせいたします。

### 記

すでにお知らせしております米国関連会社の持分取得（完全子会社化）を実施するに伴いまして、統合した新たな第一化成株式会社が更なる飛躍と企業価値の向上を図ることを目指すために様々な施策に取り組んでおりますが、この結果中期経営計画の前提が変わったことから、2018年度および2019年度の見通しを見直しました。

詳細につきましては、添付資料をご参照願います。

本件についてのお問い合わせは、当社経営管理部長 吉村までお願いいたします。

(TEL : 0 4 2 - 6 4 4 - 6 5 1 5)

(注) 本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以 上

# 2017年度決算説明資料

---



2018年2月19日

# 2017年度について

	中期経営計画 (2017/1/23)	期初見込み (2017/5/12)	本決算 (2018/2/14)
売上	6,500,000,000	7,900,000,000	7,848,000,000
営業利益	1,600,000,000	1,550,000,000	572,000,000
純利益	1,000,000,000	1,000,000,000	71,000,000
EBITDA	1,900,000,000	---	1,726,000,000
完全希薄化ベース株式数	9,643,799	---	---
1株当たり利益	104円	168円01銭	8円94銭
前提為替レート	\$1 = 100円	\$1 = 110円	\$1 = 111.6円
(注記)	9か月決算		(単位:円)

# 2017年度の決算について

---

- 売上はほぼ期初見込み(79億円→78億48百万円)で着地したものの、利益は大幅に下回った(営業利益:15億50百万円→5億72百万円)
  - ウルトラファブリックス社(以下、Uf社)の資産・負債の公正価値における連結財務諸表への取込み(PPA: Purchase Price Allocation)において、顧客関連資産(Customer Relationship)等償却資産が発生
  - 株式報酬費用が増加(第7回ストックオプション分)
  - 家具向けが増えたものの自動車向けの伸びが予想を下回ったことにより、販売単価が低下
  - 将来の増産を見込んだ生産体制の構築により、製造原価(COGS)が上昇
  - 稼働率が高い中での生産が続いたことにより、生産と納期の近くなることが多くなり、輸送コストが増加(空輸比率の増加)
  - 持株会社の設立関連費用が増加(登記費用等)
  - 内部統制整備関連費用が増加(特にUf社サイド)

# 2018, 2019年度について

	2018年度 中期経営計画 (2017/1/23)	今期見込み (2018/2/14)	2019年度見込み
売上	10,400,000,000	11,200,000,000	12,000,000,000
営業利益	2,700,000,000	1,000,000,000	1,700,000,000
純利益	1,700,000,000	200,000,000	900,000,000
EBITDA	3,300,000,000	2,700,000,000	3,100,000,000
完全希薄化ベース株式数	9,643,799	---	---
1株当たり利益	176	---	---
前提為替レート	\$1 = 100円	\$1 = 110円	\$1 = 110円

# 2018年度の見通しについて

---

- ドルベースの売上はほぼ中期経営計画通り
  - 中期経営計画: 104億円 ÷ 100 = **104百万ドル**
  - 今期見通し: 112億円 ÷ 110 = **102百万ドル**
- 営業利益は27億円から10億円に下方修正
  - 顧客関連資産の償却、株式報酬費用の計上
  - 想定販売単価の低下
  - 製造原価の高止まり(人員増、新しいラインの稼働)
  - 2018年夏以降のフル2ライン化までは輸送コストの高止まり
  - 持株会社の運営費を含めた管理体制の充実
  - 拠点拡充等組織体制の充実
  - サステナビリティの重視(CSRレポート作成、ISO14001取得準備)

# 2019年度以降の方針について

---

- 販売戦略は中期経営計画に沿って遂行
  - 自動車向け販売の強化
  - 民間航空会社向け販売の推進
- コスト削減を推進
  - 株式報酬費用の管理強化
  - 生産量の増加において、新規設備の効率的な運用による単位当たりの製造原価の低減
  - 余裕を持った生産計画による輸送コストの低減
  - 内部管理体制の充実による外部への支払い報酬の低減

# 事業の見通し

---

- 弊社製品の潜在的市場が拡大するとの想定は維持
  - アニマルフリーでラグジュアリーなレザー市場の出現
  - 顧客によるサステナビリティの重視
  - 軽量且つ耐久性の高い素材へのニーズの拡大(自動車、航空機)
- Alcantara(アルカンターラ)の戦略(2017年3月)
  - 既存の生産能力 = 900万㎡ / 年(日経による)
  - 今後5年で約300万ユーロ(400億円)を投資し生産能力を倍増する → 生産能力は2022年に1,800万㎡へ
  - 自動車の内装材を始めとする需要の増加を取込む戦略
    - 自動車台数の伸び+採用部位の増加
  - イタリア製(Made in Italy)の重要性、イタリアにおける設備投資
  - 東レも人工皮革(ウルトラスエード)の国内生産能力を、約35億円を投資して現在の1.6倍となる1,000万㎡へ増強(2019年9月稼働開始予定)
    - 自動車の内装材や電子デバイスの表面材等の用途が増加
    - 年率7%程度の需要の伸びを見込む